

教科書本文の活用術⑥：新出語彙・重要表現の導入と定着（本文に入る前のひと手間）

新出語を「ノートに意味を写して終わり」にすると、生徒は本文で同じ語に出会っても読めず、まして使えません。語彙が定着しないのは覚える気がないからではなく、出会い方が「意味の書き写し」だけだからです。この記事は、音・使い方・想起をセットにした語彙の導入と、本文・アウトプットで再会させて定着させる流れを解説します（本文・語彙リストは非掲載。指導の骨組みを提供します）。

この方法で解決できる悩み

- ・ 単語の意味は写させたのに、本文で読めない・テストで書けない
- ・ 語彙指導が「日本語訳を確認して終わり」になっている
- ・ 覚えさせたい語が多すぎて、どう扱えばいいか回らない

語彙は「4点セット」で導入する

意味だけを渡すと記憶に残りません。新出語は、次の4点をセットで一度に扱います。

要素	やること
音	教師が発音→全体・列・個で3回リピート（つづりより先に音）
意味	訳語は最小限。絵・実物・英語の言いかえで直感的に
使い方	その語を含む短い1文（コロケーション）で見せる
想起	隠して「これ何だっけ？」を即その場で1回

「音→意味→使い方→想起」を1語につき30秒。訳を写す時間より、この30秒の方が残ります。

定着は「間隔をあけた再会」で決まる

1回で覚える語はありません。定着は、同じ語に何度も文脈の中で再会することで進みます。導入して終わりにせず、意図的に再会を仕込みます。

- ・ 導入直後：フラッシュカードで即・想起（意味→英語、英語→意味の両方向）
- ・ 本文で：「さっき導入した語がここに出てくる」と気づかせる（読解の中での再会）
- ・ 次時のはじめ：帯で前回の語を30秒リトライ（間隔をあけた復習）
- ・ アウトプットで：その語を使わないと言えない活動・お題を出す

「使わせて」初めて自分の語になる

理解語彙（見て分かる）と使用語彙（自分で使える）は別物です。テストや発表でその語を使う必然のある場面を作らないと、使用語彙になりません。導入した語を使うお題（例：新出の形容詞で自己紹介、新出動詞で昨日の出来事）を、単元内に必ず1回置きます。

すべての新出語を同じ熱量で扱う必要はありません。単元を中心となるキー表現を3～5個に絞って4点セット＋再会を手厚くし、残りは音と意味の確認にとどめる——このメリハリが、限られた時間で語彙指導を回すコツです。全部を完璧に、と思うと導入だけで時間が尽きます。優先順位をつけて、大事な語に手をかけてください。

本文の授業シリーズ

語彙の導入は、本文の授業の入り口に置きます。新出語彙の導入(本記事)→オーラル・イントロダクション→内容理解の発問→音読→リテリング→自己表現ライティング、という流れの最初のピースです。ここで音と使い方をセットにしておくと、続くオーラル・イントロダクションで教師の英語が生徒に届きやすくなり、本文読解もスムーズになります。語彙指導は、本文の授業全体の土台です。